



令和6年産米の作柄概況について

令和7年4月1日

1)作柄

4月から7月にかけてかなりの高温（平年+約2.7℃）、少雨（平年比約59%）、多照（平年比約112%）で推移しました。特に気温に関しては、記録的高温年だった令和5年度と比較しても、約0.6℃高くなりました。東北南部の梅雨入りは6月23日頃、梅雨明けは8月1日頃となりました。8月はかなりの高温となり（平年+約2.9℃）、日照時間は短くなりました（平年比約90%）。9月も高温傾向（平年+約2.8℃）で、中旬から下旬にかけてまとまった降雨がありました。10月も高温傾向が続き（平年+約2.4℃）、降水量は少なく（平年比約50%）、日照時間は少なくなりました（平年比約82%）。

田植え盛期は5月15日で平年より4日遅く、出穂盛期は7月26日と平年より6日早まりました。出穂が早かったことや登熟期間が高温で推移したことから成熟が早まり、刈取開始時期が早くなりましたが、9月中旬から下旬にかけてまとまった降雨があったことから、その後の刈取進捗は鈍化しました。

令和6年度も高温傾向で推移し、管内の出穂始期から出穂終期までの全ての期間中において、出穂後20日間の平均気温は27℃前後で推移しました。昨年ほど極端な高温傾向ではなかったものの、高温障害が発生し得る気象条件が長引いたという特徴があります。このことが白未熟粒の発生を助長したと考えられます。また、8月は日照時間が短くなったことから（平年比約90%）、籾数が多かった圃場を中心に登熟歩合が低下し、くず米の割合が増加したと考えられます。

※令和6年度仙南稲作情報（総括号）より抜粋

宮城県南部

549kg / 513kg

【106】

宮城県

583kg / 550kg

【107】

< 凡例 >

上段：10aあたり収量kg

(ふるい目1.7mm) / (ふるい目1.9mm)

下段：【作況指数】

※上記の10aあたり収量及び作況指数については、令和6年12月10日に東北農政局が公表した「令和6年産水稻玄米のふるい目幅別10aあたり収量データ」より引用しています。

2)6年産米集荷状況及び品質

(袋換算)

6年12月末現在

地区名	集荷数量	集荷率	1等米比率
柴田	35,006	79.85%	80.55%
大河原	14,666	85.40%	70.10%
村田	22,282	69.26%	80.29%
川崎	38,819	82.47%	86.21%
蔵王	27,331	74.63%	71.70%
白石	33,978	67.10%	76.64%
七ヶ宿	5,090	93.86%	96.76%
角田	117,256	71.19%	85.74%
丸森	40,522	76.80%	73.70%
みやぎ仙南	334,950	74.37%	80.85%

- ・仙南地域における2等以下の主な格付理由
- ①部分着色(カメムシ) (34.43%)
- ②充実度(31.28%)
- ③心白粒(19.77%)

<裏面もあります>

育苗管理について

～高温障害に気をつけ、ハウス内の温度・水管理を適正に行いましょう～

温度管理

時期	日中の目標	夜間の目標
緑化期	20～25℃	10℃以上 低温時(外気温が5℃以下)は、早めにハウスを閉め保温資材をかけましょう。
硬化期	15～25℃	

- ◎軟弱徒長苗を防止するため、硬化期は25℃以下の温度で管理するよう努めましょう。
- ◎温度管理を適正に行うことで、苗の徒長や不揃い等を防ぎ、カビ等の発生も併せて抑制することができます。
- ◎新しいビニールに張替した場合は温度が上がりやすくなるので、注意しましょう。



温度計の設置は目の高さではなく、苗の高さに設置しましょう！！

水管理

- ◎1回目のかん水は緑化が終了してから行いましょう。
- ◎覆土や葉が乾いたら、午前中にたっぷりとかん水しましょう。



1日に何回もかん水を行うと、軟弱苗、徒長苗や根張りが悪くなります。過湿になると、カビや細菌の発生にもつながりますので、かん水は午前中に1回のみ行いましょう。

※プール育苗法については『おいしい米づくり・地域づくりカレンダー』を参照してください。

育苗時の殺菌

おすすめの使用方法

適用病害名/使用目的	薬剤名	希釈倍率	使用液量(育苗箱1箱当り)
苗立枯病・ムレ苗防止 根張促進・活着促進	ナエファインフロアブル	1,000倍	500ml



水100ℓ + 薬剤100ml = 1,000倍液(苗箱200枚分)

1,000倍液を苗箱に500ml/1箱かん注します。

◎は種時の使用か、出芽直後の使用をおすすめします。

異品種混入防止対策

異品種が混入した場合、大きな損害(産地の信用喪失、損害賠償等)を被ることになります。作業を行うにあたり、繰り返し点検・確認することで確実な防止対策ができます。

対策



- ★購入した種子袋は保管しておきましょう。
- ★種子ネットは品種ごとに色を変え、品種名の札を付けて作業員全員が判るようにしましょう。
- ★品種切替り時には機械清掃をしましょう。
- ★ハウスにも品種札を設置しましょう。
- ★苗の運搬時は複数人で、事前に品種を確認しましょう。